

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法士学科	科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	老年期障害治療学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	昼間部2年	学 期	前期	教室名	802
担 当 教 員	吉川 友				
実務経験と その関連資格	介護老人保健施設3年4カ月、訪問看護ステーション1年9カ月、通所介護4年5カ月の勤務を経て、居宅介護支援事業所で介護支援専門員、法人内の機能訓練指導員のマネジメントを通じて高齢者、または認知症、その他疾患の方々への作業療法の支援を行っている。また、一般企業での就労経験10年間により、心理学を活用した対人コミュニケーションスキルアップ、マネジメント業務に従事する。 京都府作業療法士会・認知症支援推進部委員 6年目 京都府乙訓地域介護認定審査員 5年目 日本作業療法士協会 専門・認知症訪問基礎Ⅳ 講師3回 乙訓医師会在宅療養手帳委員会 委員 5年目 介護支援専門員資格取得(令和4年) 介護福祉士資格取得(令和4年) 日本作業療法学会ポスター発表 2回(2018年、2021年、2022年)				
《授業科目における学習内容》					
この授業では、老年期障害について幅広く理解し、老年期障害に配慮した評価実施・統合と解釈・治療計画・ゴール設定といった一連の流れが実施できるように設定している。加えて、座学と実感がイメージして繋がるように進めることを主とする。					
《成績評価の方法と基準》					
定期試験 :70% 小テスト :20% レポート :10%					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学					
《授業外における学習方法》					
分野にこだわることなく、作業療法に関する興味のある分野を、調べ、疑問を持ち、自分なりの答えを見つける習慣をつけておくこと。また、自分自身の病気の体験や家族、周りの人が困っている病気や疾患について調べ、役に立てる可能性を模索する。					
《履修に当たっての留意点》					
・老年期の基本的な問題点を説明できる。様々な情報から統合と解釈ができる。ゴール設定の仕方が説明できる。 ・加齢に伴う生理的老化・病的老化の違いを説明できる。 ・老年期疾患の特徴を説明できる。					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	①オリエンテーション:教師、学生の目標を確認できる。 高齢者を取り巻く社会情勢と、介護保険制度について理解する。	教科書	教科書P. Xi~xvii(目次)、P.6~38、P.95~104を見て、高齢期の学習項目を確認しておくこと。	
	各コマにおける授業予定	オリエンテーション、授業の進め方や老年期における社会背景について学ぶ。			
第2回	授業を通じての到達目標	②高齢者の身体的特徴を知る。	教科書	教科書P. 78~93(高齢期作業療法の実践課程)、P. 39~50(高齢期の一般的特徴)を読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	一般的な高齢者の身体的特徴を知り、援助方法を学ぶ。			
第3回	授業を通じての到達目標	③廃用症候群の原因を理解し、対応手段を知る。	教科書	教科書P. 78~93(高齢期作業療法の実践課程)、P. 39~50(高齢期の一般的特徴)を読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	廃用症候群の原因と臨床像をイメージでき、そのメカニズムを理解し、その対策の考え方を学ぶ。			
第4回	授業を通じての到達目標	④高齢者における廃用症候群への作業療法評価方法を知り、介入方法を知る。	教科書	教科書P. 150~161を読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	廃用症候群への作業療法の評価と実践を学ぶ。			
第5回	授業を通じての到達目標	⑤高齢者における廃用性機能低下の介入方法と実際を知る	教科書	教科書P. 150~161を読んでおくこと。	
	各コマにおける授業予定	廃用症候群への作業療法介入方法のについて事例を通して学ぶ。			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	⑥高齢者におけるパーキンソン病の病理と臨床像を知る。	教科書	教科書P. 57(変性疾患)を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	高齢者におけるパーキンソン病の4大徴候・諸症状・長期服薬の副作用や生活状況について写真等を通して学ぶ。		
第7回	授業を通じての到達目標	⑦高齢者におけるパーキンソン病の評価方法と実際を知る。	教科書	教科書P. 57(変性疾患)を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	高齢者におけるパーキンソン病に必要な評価項目をMTDLPの視点から学ぶ。		
第8回	授業を通じての到達目標	⑧高齢者におけるパーキンソン病の介入方法と実際を知る。その1	教科書	教科書P. 57(変性疾患)を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	事例検討から学ぶ。		
第9回	授業を通じての到達目標	⑨高齢者におけるパーキンソン病の介入方法と実際を知る。その2	教科書	教科書P. 57(変性疾患)を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	事例検討から学ぶ。		
第10回	授業を通じての到達目標	⑩高齢者における認知症の病理と臨床像を知る。	教科書	教科書P. 64～75(認知症)を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	高齢者における認知症における病理と臨床像について実際の支援内容や写真等を通して学ぶ。		
第11回	授業を通じての到達目標	⑪高齢者における認知症の評価方法と実際を知る。	教科書・演習	教科書P. 64～75(認知症)を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	老年期の認知症に必要な評価をMTDLPの視点から学ぶ。		
第12回	授業を通じての到達目標	⑫高齢者における認知症の介入方法と実際を知る。その1	教科書	教科書P. 177～196を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	事例検討から学ぶ。		
第13回	授業を通じての到達目標	⑬高齢者における認知症の介入方法と実際知る。その2	教科書	教科書P. 177～196を読んでおくこと。
	各コマにおける授業予定	事例検討から学ぶ。		
第14回	授業を通じての到達目標	⑭高齢者・ご家族、多職種とのコミュニケーション方法を知る。	教科書	これまでの授業の復習・各種疾患の特徴・作業療法を把握しておくこと
	各コマにおける授業予定	コミュニケーション作りの方法について実習を通して学ぶ。		
第15回	授業を通じての到達目標	⑮講義の総復習: 質疑応答・国家試験対策について知る。	教科書	これまでの授業の復習・各種疾患の特徴・作業療法を把握しておくこと
	各コマにおける授業予定	過去の授業について総復習を行い、学びを深める。		